

災害時における大学のSCMモデル構築に向けた ワークショップの実施

Implementation of Workshop for Constructiong SCM Model of University in Preparation for Disaster

○近藤 伸也¹, 目黒 公郎¹
Shinya KONDO¹ and Kimiro MEGURO¹

¹ 東京大学生産技術研究所

Institute of Industrial Science, The University of Tokyo

University is an institute for development of bearers of future and leading-edge research. There are much valuable data and precious documents for them, so disaster countermeasures are essential for university. The authors try to construct Service Continuity Model (SCM) of university. The purposes of SCM are three points, damage minimization at university in disaster, proper continuity of important service of university, and contribution to residents living in the vicinity of university. In this paper, topics and results of SCM workshop staff members from a university attended are reported.

Keywords : SCM, disaster management manual, workshop, university, disaster prevention

1. はじめに

大学は未来を担う人材を育成するとともに、最先端の研究を担う機関であるとともに、これらのための貴重な資料やデータなどが存在する。これまで大災害により、大学は業務の継続に支障を来す程の大きな被害を受けた経験がある。例えば 1923 年関東地震では、東京大学が建物倒壊による被害を受け、火災によって貴重な資料や文献が紛失している¹⁾。1995 年兵庫県南部地震では、下宿先の老朽アパートの崩壊により多くの学生が死亡したほか、いくつかの建物が被災者の避難所として利用されていた。今後、首都直下地震をはじめとした大きな被害を受ける災害の発生が想定されているが、大学の学生や教職員、研究資料や文献の喪失は、我が国のみにとどまらず世界に大きな影響を及ぼす可能性が高い。そのため、平時から災害への対策が不可欠である。これまで岩口ら²⁾は、東京工業大学のあるセンターを対象とした BCP の紹介と大学に適した BCP 導入手順について考察している。

筆者らは上記を踏まえて、災害発生時に大学が受ける被害の最小化、大学としての重要サービスの適切な継続を可能とする対策の実現と、地域社会における有力な組織として災害時の周辺地域への貢献のあり方に関して検討する大学の SCM(Service Continuity Management)モデルの構築に向けた取り組みを行っている。本稿では、その取り組みの一環としてある大学の一つのキャンパス関係者を対象として実施した SCM ワークショップの内容とその成果について報告する。

2. 大学のSCMモデルの概要

本研究における大学の SCM モデルは、災害発生後に大学として実施/継続/再開すべき重要サービスを抽出し、時間経過に伴ってどの段階まで実施/継続/再開すべきか検討する。そして重要サービスの実施/継続/再開に向けて、いつまでに誰がどの情報を用いてどのような段取り

で、事前から応急、復旧/復興期までの対策を実施するかを検討したものである。成果物は、大学としてのサービス継続計画(SCP: Service Continuity Plan)や SCM モデルを踏まえた防災計画と防災マニュアルである。平時から SCM を構築する利点は、災害対策本部長からの指示や他組織との調整後から対応するまでの時間が、SCM ないの場合より短縮されることである。図 1 は災害発生後の対策を実施するにあたって時間経過に伴う大学を所管する文科省と大学との関連を示したのものである。ここで SCM なしの場合、文科省との調整が終わってから対策を検討することになるが、SCM を準備していると調整時に案を提示できるとともに、調整してから SCM を微修正するだけで対策できるようになる。これにより、災害発生時に大学が受ける被害の最小化、大学としての重要業務の適切な継続を可能とする対策の実現と、地域社会における有力な組織として災害時の周辺地域への貢献が可能となる環境を整備できる。

SCM モデルの構築に向けた想定作業フローを図 2 に示す。まず過去の災害事例、特に兵庫県南部地震における神戸大学の対応³⁾から災害時に大学で起こる状況を認識しながら、災害発生後に大学として実施/継続/再開すべき重要サービスを抽出する。そしてその重要サービスを達成するために必要となる業務(以下重要サービス達成業務)を設定し、いつまでにどの程度実施/継続/再開

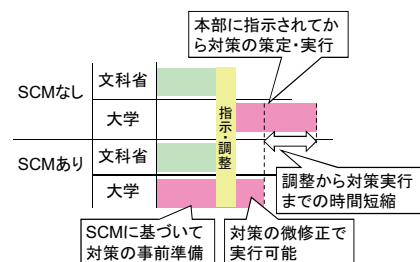


図 1 SCMによる効果イメージ

する時期と段階を設定する。それから重要サービスの実施/継続/再開に必要な対策を、大学に関連する組織および体制とそれぞれの所掌事務、および必要な情報とその管理主体と合わせて分析する。分析結果は、既存の防災マニュアル⁴⁾の分析結果と比較し、改訂版の防災マニュアルを策定する。これらは後述のSCMワークショップおよび関係者との打合せを

3. SCMワークショップの実施

(1) SCMワークショップの概要

SCMワークショップは、SCMモデルの構築に向けた想定作業フロー(図2)にある重要サービスの抜き出しと重要サービス達成業務の抽出および重要サービスを実施/継続/再開する時期と段階の設定をねらいとして実施した。対象は東京23区にある大学の一つのキャンパスである。参加者は教員6名、職員8名であり、三つのグループに分かれて行った。運営側は、ワークショップでのグループ作業を運営するファシリテーターがグループに1名ずつ3名、参加者に専門的な知見からアドバイスをする専門家が2名、全体の司会運営を行う司会者が1名で行った。

SCMワークショップでは、はじめに概要を説明し、過去の災害事例を認識するために兵庫県南部地震における神戸大学での事例を説明することで、参加者が災害発生後に大学で想定される状況の認識を容易にした。その後、参加者は首都直下地震が発生し、東京23区周辺で大きな被害が発生している前提で直後から1ヶ月までに大学が優先して行うべき、継続すべき重要サービスをカードに記入した。記入ルールは、「大学が」「…までに」「～する」のように主語と述語およびサービスを行う時期を明確にすることと、所属にとらわれず大学全体で行うべきサービスを記入することである。カードは各グループで共有され、専門家を含めた議論を踏まえて増強された(図3)。

(2) SCMワークショップの成果

SCMワークショップの成果から導き出された重要サービスと実施時期を示したものが図4である。横軸は災害発生からの経過時間を示している。「生命の安全確保」とは、災害発生時に大学キャンパス内に残留していた教職員の安全を確保することであり、「二次災害の防止」は火災をはじめとした二次災害の発生を防ぐとともに余震による被害を防ぐ活動を行うことである。「広域避難場所の役割」とは、災害による火災延焼から避難してきた住民へ対応することであり、「大学としてのサービス継続」とは、授業、試験、学位論文をはじめとした

学生へのサービスに関する対応方針の決定と図書館や基幹システムの復旧が含まれている。

重要サービスを達成するための業務を示したのが図5である。重要サービス達成業務の色は、先に述べた重要サービスと関連している。例えば教職員・学生の安否確認は、災害発生直後におけるキャンパス内の教職員の安否確認については、「生命の安全確保」が目的となる。しかし、その後のキャンパス外にいたすべての教職員およびその家族の安否確認は、「大学としてのサービス継続」に必要な人員確保が目的となる。

今後は、重要サービスの内容を踏まえた重要サービス達成業務の分析を、大学の組織体制と所掌事務、必要な情報とその管理主体、および既存の防災マニュアルをもとに行う予定である。

参考文献

- 1) 鈴木淳：関東大震災－消防・医療・ボランティアから検証する，ちくま新書，2004.
- 2) 岩口陽子他：大学の地震対策の現状とBCPのあり方に関する考察，地域安全学会梗概集No.23, pp.94-97, 2008.
- 3) 神戸大学庶務部庶務課：兵庫県南部地震による震災の記録，神戸大学，1996.
- 4) 例えば東京大学教養学部等事務部：東京大学駒場Iキャンパス防災マニュアル，2006.



図3 SCMワークショップでの状況

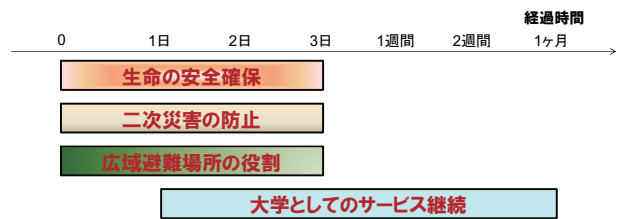


図4 大学としての重要サービス

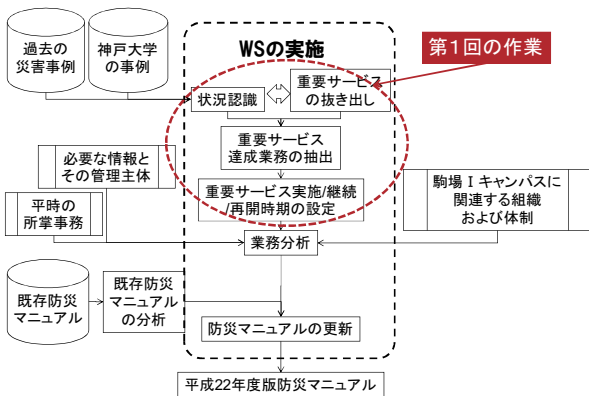


図2 SCMの想定作業フロー

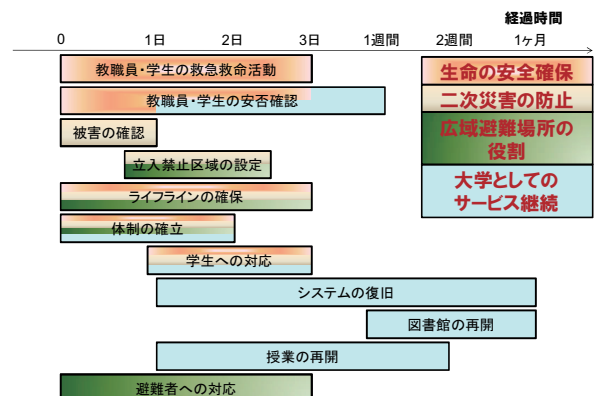


図5 重要サービス達成業務